

土木学会四国支部「土木紀行」No.63(高知県)

「シャトー三宝」

高知の空の玄関口、高知龍馬空港より北東方向の山々に目をやると、小高い山の頂上に洋風の古城が見えます。この古城が「シャトー三宝」です。ふもとは県立のいち動物園があり、遠方からの来園者のランドマークとして、古城の立つ香南市のシンボリックな存在になっています。

三宝山の代名詞といえる頂上の洋風の古城「シャトー三宝」(写真-1)は龍河洞スカイラインの目玉施設として建設されました。龍河洞スカイラインは現在、県道385号香北野市線の一部の道路であり、文字通り龍河洞への国道55号線からのアクセス確保と周辺の観光開発を目的に建設されました。図-1にこのルートとシャトー三宝の位置を示します。以前は有料の道路でしたが1997年4月1日より株式会社龍河洞スカイラインより県へ譲渡され無料となっています。



図-1 ルートと位置の地図

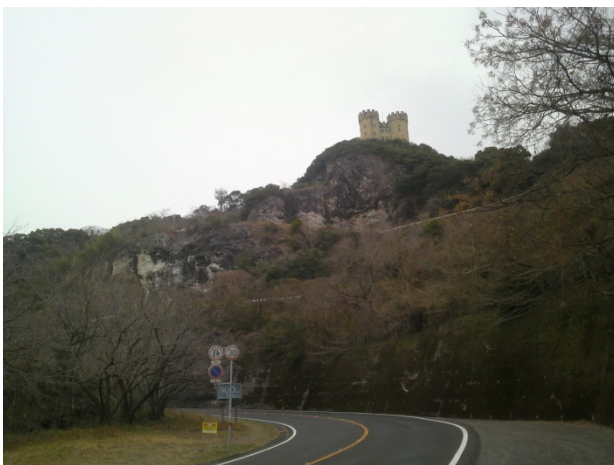


写真-1 三宝山の西側からの眺め

この古城は近くに物部川という一級河川が流れているにもかかわらず、「四万十の風」という名前の四万十川の資料館でした。以前はこの施設の他に、古城の向かいに遊園地「三宝スカイパーク」とレストラン「三宝山スカイレスト」が建っていました。しかし、三宝山スカイパークは1997年、シャトー三宝は2000年、三宝山スカイレストは2003年にそれぞれ閉館しました。その後、シャトー三宝以外の施設はすべて取り壊されました。また、高知平野を一望できる景色のいい場所ですが、現在施設に通じる道路は閉鎖

されており、中に入ることができないため、その絶景は見ることはできません。

しかし、壊されずに残り、高知平野東部のランドマークとなったシャトー三宝は、頂上からの景色は見えませんが周辺からの見え方を楽しむことができます。この古城を三宝山の西側から眺めると龍河洞スカイラインのヘアピンカーブにそびえたつ石灰岩群によって、絶壁に建つ古城のような顔を見せます。この石灰岩層は東方に龍河洞を経て、大栃から槇山川に沿って徳島へ続き、西方へは須崎市を通り愛媛県法華津湾へ伸びる四国内だけでも東西に200km以上にもわたる、古生代石炭紀～ペルム紀～中生代三畳紀の地層で、仏像構造線に接する秩父累帯最南端の地層帯の三宝山層群のものです。

県立のいち動物公園があるため写真-1の角度からがメジャーですが、写真-3のように三宝山を東からみると森の奥に建つ古城で、1つしかないので遠い世界のおとぎ話に出てくるような人を近づけないような古城のような顔が見えます。

色々な角度からこの古城を眺めて、自分の好きな古城の見え方を探してみてもいいでしょう。



写真-2 龍河洞スカイラインの碑

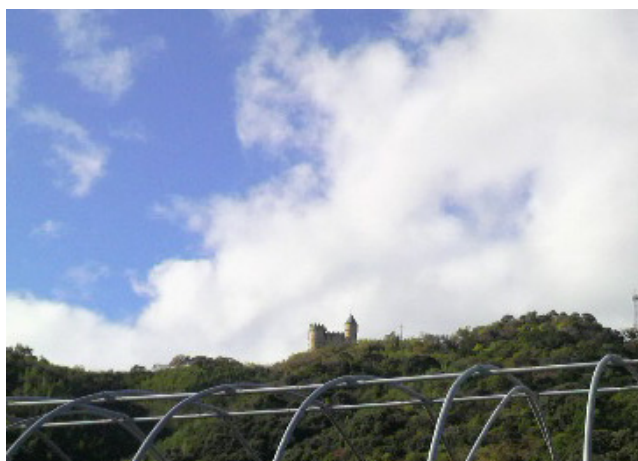


写真-3 三宝山の東側からの眺め

参考文献：香南市ホームページ <http://www.city.kochi-konan.lg.jp/>

(高知高専専攻科 建設工学専攻 1年 常石 晶)